

# CASBEE<sup>®</sup> 京都-新築

## 標準システム

■使用評価マニュアル：CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 | 使用評価ソフト：CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	大谷中学高等学校新体育館およびグラウンド、外構整備事業	階数	地上2F
建設地	京都市東山区今熊野池田町12他30筆	構造	RC造
用途地域	第1種住居地域、旧市街地型美観地区、遠景・近景デザイン保全区域	平均居住人員	120 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,000 時間/年(想定値)
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年2月 予定	評価の実施日	2018年11月1日
敷地面積	5,370.00 m <sup>2</sup>	作成者	内山宗幸
建築面積	3,913.15 m <sup>2</sup>	確認日	2018年11月9日
延床面積	5,541.15 m <sup>2</sup>	確認者	山田俊紀



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み 88%

③上記②以外の 87%

④上記+ 87%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Q のスコア = 2.8

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.5

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.6

**LR 環境負荷低減性** LR のスコア = 3.2

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.3

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 京都市内にある中学高等学校敷地内に体育館を新築する計画である。高効率な設備機器の導入により、環境負荷の低減に配慮した建物である。		<b>その他</b> 特に無し。
<b>Q1 室内環境</b> 全館禁煙とし、良好な空気環境を維持している。	<b>Q2 サービス性能</b> 更新間隔の長いダクトや配管材料を採用し、設備耐震クラスもAクラスを確保し、建物の耐用性向上に配慮している。	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> 旧市街地型美観地区、遠景・近景デザイン保全区域に該当し、景観条例の許可を受けている。
<b>LR1 エネルギー</b> 高効率な設備システムを導入し、省エネルギーに配慮している。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 節水器具の採用やリサイクル材の積極的な採用で資源の保護に配慮している。	<b>LR3 敷地外環境</b> LCCO <sub>2</sub> 削減に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される